

## 東海地域の稠密GPS観測網の構築

### New dense GPS network around Tokai region

# 内海 さや香[1]; 清水 寧子[1]; 長尾 邦弘[2]; 福谷 一孝[2]; 原田 靖[1]; 里村 幹夫[3]; 加藤 照之[4]; 熊元 淳美[5]; 島田 誠一[6]; 木股 文昭[7]; 松島 健[8]; 長尾 年恭[9]; 佐柳 敬造[10]; 楠本 成寿[11]

# Sayaka Uchiumi[1]; Yasuko Shimizu[1]; Kunihiro Nagao[2]; Kazutaka Fukuya[2]; Yasushi Harada[1]; Mikio Satomura[3]; Teruyuki Kato[4]; Atsumi Kumamoto[5]; Seiichi Shimada[6]; Fumiaki Kimata[7]; Takeshi Matsushima[8]; Toshiyasu Nagao[9]; Keizo Sayanagi[10]; Shigekazu Kusumoto[11]

[1] 東海大学 海洋学部; [2] 静岡大・理・生地; [3] 静岡大・理・生物地球環境; [4] 東大地震研; [5] 東海大・地震予知研究センター; [6] 防災科研; [7] 名大・院環境・地震火山センター; [8] 九大・地震火山センター; [9] 東海大・予知研究センター; [10] 東海大・海洋研; [11] 東海大・海洋

[1] Tokai University; [2] Biology and Geosciences, Shizuoka Univ.; [3] Fac. of Science, Shizuoka Univ.; [4] Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo; [5] Earthquake Prediction Res. Center, Tokai Univ.

; [6] NIED; [7] Res. Center Seis. & Volcanology, Graduate school of Environ., Nagoya Univ.; [8] SEVO, Kyushu Univ.; [9] Earthquake Prediction Res. Center, Tokai Univ.; [10] IORD, Tokai Univ.; [11] School of Marine Sci. & Tech., Tokai Univ.

東海地方は「東海地震」の震源域として様々な観測体制が敷かれており、GPSによる地殻変動観測も主として国土地理院によりリアルタイム観測が行われている。特に2000年6月ごろより現在に至るまでのスロースリップは1997年から約8年間の観測データの中で特筆すべき現象である。この東海地域スロースリップ現象は時空間的に細かな特徴を持ち、GPS観測点の密度が増せばさらに微細な事象が明らかになる可能性を持っている。

東大地震研、静岡大学、東海大学、九州大学を中心とした「GPS大学連合」では、この東海地方(国土地理院のGPS観測点が約40点ある地域)に約60点の新GPS観測点を2004年度までに設置しており、既に1年程度のデータを蓄積している。設置した場所は主に静岡県内の小学校の校舎の屋上で、小学校が隣接した場所に分布していないために、適当な間隔を持った新GPS観測網が完成した。この新GPS観測点と国土地理院のGPS観測点を結合した「東海地域GPS稠密観測網」を構築した。観測点密度が約2.5倍になることでスロースリップによる地殻変動の空間分解能を飛躍的に上げられると期待される。

講演時には、この新GPS観測網から得られた地殻変動ベクトル及びこれから計算された歪・応力分布図などを紹介する。

# 東海地域GPS観測網

